

第9回 宮城民医連 学術運動交流集会

テーマ「震災から10年
いまコロナ禍から未来へ」

日時▶6月20日(日)午前9時～午後1時 予定
メイン会場▶坂総合クリニック1号館 8階会議室
参加方法▶オンライン参加

主催/第9回学術運動交流集会実行委員会

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

みやぎ民医連

発行所 宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区本町通1-8-18
〒980-0801 田村ビル5F
TEL 022-265-2601
FAX 022-263-8266
e-mail:dai@miyagi-min.com
発行人 坂田 匠
1日・15日 月2回発行 1部50円



オンラインで参加した新入職員の皆さん

4月5日、2021年度宮城民医連新入職員オリエンテーションが行われました。オンライン会場をつばき薬局長町店、泉病院、古川民主病院、松島医療生協、県南医療生協、セントラルキッチン、6か所で開催の開催でした。坂総合病院で参加予定だった職員は、新型コロナウイルス感染症対策のため、Zoomでのリモート参加となりました。はじめに、宮城民医連の坂田事務局長より歓迎の挨拶がありました。坂田事務局長は、新型コロナウイルスの対策、民医連の掲げる無差別平等の理念、地域の中での私たちの役割について、宮城民医連の理念や綱領、活動について、具体的な事例を通して説明されました。現在の政治が作り出した貧困や格差、全世代型社会保障や平和運動など、学習ブックレット「民医連の綱領と歴史」をぜひ読んでほしいと強調しました。

オンラインで

新入職員

オリエンテーションを開催

白石越河原発被ばく健診 「安心できます」の声

泉病院 臨床検査技師 大堀 郁 望



健診前の打合せ

3月20日、県南医療生協と協同クリニックにて白石越河原発被ばく健診が行われました。本健診は、福島県との県境に位置する白石市越河地区の住民の要望にこたえて始まったもので、今年で第8回となります。主な健診内容は、甲状腺エコー

・心電図・採血などで、最後に医師による診察とエコー結果の説明となります。当日の職員は計10名で、医師1名、看護師2名、事務2名、検査技師3名、放射線技師2名で実施しました。今年度は後継者育成と民医連活動の体験を目的として検査技師2名の研修を行い、機器の操作やレポートの書き方、エコー検査の進め方などを確認しました。

健診受診者は7名で、昨年より2名の減少となりました。全員継続して受診されている方で、慣れた様子でスムーズに健診を進めることができました。新型コロナウイルス感染症対策をした上での実施となりましたが、十分に間隔を空けて予定していたおかげで、保護者への説明やエコー検査の時間を

十分に取る事ができました。受診者の方は「他だとサッと検査して異常なしで終わってしまわう。(本健診では)とても安心できます」との声を頂きました。

健診終了後のふりかえりでは、「親たちはあのときあの場所に来てしまったことの責任をずっと心にかかっている。それに対して安心材料を提示できる」「スタッフが子どもたちの顔を知っていて『大きくなったね』などと話しているのを見て、越河健診の歴史を感じた。今後も続けていく必要がある」「子ども

たちが元気に来てくれたよかった。8年前に受けた子どもたちがその後どうなっているか気になる」など職員から様々な意見や感想が聞かれました。「8年前に受けた子どもたちが、大学を卒業して就職で戻ってくるケースも増えていくと考えられる」という意見もあり、受診者は減少傾向でも健診を続けていく意義や大切さを感じました。



矢崎とも子医師診察

新入職員のみならず、入職おめでとう

10年前の4月、震災による混乱と緊張感漂う中、やる気に満ちあふれ輝いた目をした、たくさん

きた。大変な状況の中、「力になりたい」という想いがひしひしと伝わり、感謝の気持ちと、どんな状況であつてもしっかりと育成し、その力を発揮できるような力を尽きなければならぬと、冷静さを取り戻したことを思い出す。▼今年もあの時と同じように、コロナ禍での不安や重症のある医療介護福祉の現場に、たくさんの方が入職を志してくれた。歓迎の気持ち、期待していること、伝えたいこと、聞きたいことはたくさんあるが、これまでのように関わり、つながりをつくっていくことは難しいと、この1年で感じさせられた。おそらく昨年度の新入職員は、言えない不安や苦悩を抱え、「ちょっと聞いてもらいたい」ことを気兼ねなく話せる場も持てず、この1年懸命に頑張ってきたに違いない。▼不安を抱える新入職員が孤立しないよう、悩みや葛藤を吐き出し、嬉しかったことを一緒に喜びあえるよう、目の前にいる新入職員に温かく接するともに、いつもより一言多く励ましの言葉をかけていきたい。

健康手帳

10年前の4月、震災による混乱と緊張感漂う中、やる気に満ちあふれ輝いた目をした、たくさん



共通の目的

私たち民医連は、
無差別・平等の医療と福祉の
実現をめざす組織です (民医連綱領)



ひと足先にオリエンテーションを行った厚生福祉会



オリエンテーションにリモート参加する県南医療生協の職員

ました。新型コロナウイルスの説明やクラスターが発生した事例、医療機関に発生した場合の影響の大きさなどについて詳しく話され、医療従事者としてのあるべき心構えや行動に

ついても話されました。リモートでのオリエンテーションは、一体感を感じるのが難しい等の問題はありますが、昨年度は感染拡大の中で、開催できなかったオリエン

テーションを開催できたことは、大きな意義があります。これから一緒に働き行動し、経験を積みあげながら、民医連への理解を深めていきましょう。

医学生のつどい

コロナ禍の問題を通し、
今すべきこと、社会との関わりを考えた

県連事務局 橋本 さゆり

3月27日〜28日、「第41回民医連の医療と研修を考える医学生をつどい」がオンラインにて開催されました。全国から、医学生247名、事務104名、医師66名、合計

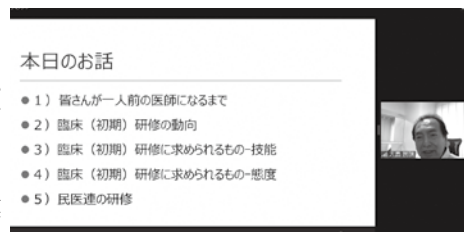
今年度のつどいのテーマは、「医学生が本気で考える社会づくり」。

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスの感染が確認され、1年が経ちました。コロナ禍によって、失業、医療崩壊の危機、差別、自死の増加、社会からの孤立など、様々な問題が顕在化しました。これらの問題は、以前から日本に存在していた問題です。健康で文化的な生活の維持の困難から、不可能になった方が沢山います。そこで、将来医師として働く医学生は、今どんな行動をとるべき

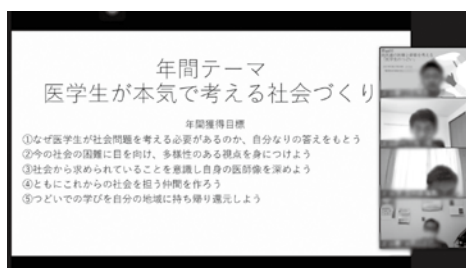
梁取慧医師の講演

「わたしの中で「社会」とは…」

- 「社会」≠「コミュニティ」「集団」
- コミュニティ（集団）を構成する最少人数規模は2人
- 集合する人数が多くなればなるほど、さまざまなものの「多様性」が故に衝突やいざいざ発生する
- 衝突を避けるためにルールや規範が必要となる



大島民旗医師より講演



考える」というテーマで講演をしていただきました。患者を生物医学的視点、心理的視点、社会的視点など多角的に見る重要性、健康格差に対して民医連が取り組んできたこと、なぜ医師が社会問題を考えるべきなのかなどについて話していただきました。

4月16日の宮城民医連の奨学生会議にて、3月つどいの報告会を予定しています。当県連から参加した医学生の皆さんが、社会の一員として、そして、医学生としてどのようなことが印象に残ったのか、どのような報告になるのか期待しています。

今回、助言者としてご参加いただきました職員の皆さま、ご協力ありがとうございました。今後とも医学生委員会にご協力をお願いします。

連載 124

私の好きな憲法は何条？

古川民主病院 看護師 瀬戸 恵子

憲法と聞くと、真っ先に思い出すのは、憲法第九条【戦争の放棄】【戦力及び交戦権の否認】です。

私が高校を卒業するまで、地元で一緒に暮らしていた祖母が二度と戦争のない国、平和を願っていた。特に印象的だったことは、戦時中生まれた私の父を抱えて守り生きるのに必死だったこと、食べる物に苦労したことなど切々と語っていたことです。そして、私の父の父（祖父）は兵士で戦

時中亡くなったことを話しながら、戦争で家族を亡くした祖母がとても悲しく辛い思いをしたことを、話してくれました。また、毎年終戦記念日には、全国戦没者追悼式を見ていた祖母。暗く悲しい表情で、じつと黙祷する姿を、他界し14年経った今でも鮮明に覚えています。

私は宮城厚生協会へ入職後、研修等で民医連の歴史や運動を学ぶ機会が多くありました。その中でも印象深いのは、全日本民医連第43期定期総会に県連代議員として参加したことです。広島で初めて被爆者の体験談を

聞き、被爆の後遺症に苦しみ続けていること、被爆者は死ぬまで被爆の恐怖から離れられないこと、被害が子や孫にまで及ぶのではないかと不安や核兵器の恐怖を抱えていることを話されていました。そして「被爆体験を語るのは苦痛だが、二度と被爆者を出さないために、話さなくちゃ」と、思いを語っていました。

日本政府は第2次世界大戦後長らく、集団的自衛権に関して「国連憲章の加盟国として、憲法第9条のゆえにそれを行ってすることはできない」と説明していました。しか



広島・原爆死没者慰霊碑

SDH報告集

身近な事例を
SDHの視点で深めよう

宮城民医連医療活動部

W部会が2020年2月作成したSDH事例報告集から、17事例を追加して、宮城民医連医療・介護SDH活動事例報告集を発行しました。

SDHとは、健康の社会的決定要因のこと、

「社会格差」「ストレス」「幼少時の援助不足」「社会的排除」「劣悪な労働環境」「失業」「社会的支援の不足」「薬物乱用」「食生活の不良」「交通の整備不足」などがあげられています。

宮城民医連内のSDHの活動は、S（さあ）D（できることから）H（はじめよう）の活動は、S（さあ）D（できることから）H（はじめよう）からスタートしました。事業所・部門での学習・実践が進んで

SDHの視点で問題を捉え、解決のためにどのような支援が必要か考える一助になればと思っています。

事業所・職場・部門で、一事例ずつ読み合わせし、身近な出来事と照らし合わせながら討議する

おりS（そう）D（だれもが）H（はっしんする力をもとう）と、多くの職員が発信する力を身に付け、県連全体の文化として定着させる段階になっています。

事例集には、資料として「SDHの項目と要旨」「事例に記載されている用語解説」を掲載し、誰でも読みやすいものになるよう工夫しました。身近な事例を、SDHの視点で問題点を捉え、解決のためにどのような支援が必要か考える一助になればと思っています。

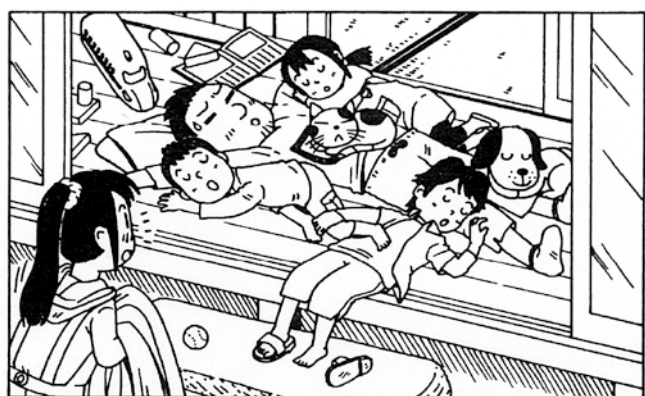
事業所・職場・部門で、一事例ずつ読み合わせし、身近な出来事と照らし合わせながら討議する

ケアステーションあゆみ 理学療法士 加藤千恵子

先日ラジオで話していましたが、電子書籍が書籍を上回ったと。そのうちテレホンカードの様に、図書カードも幻の物になってしまつてはいないでしょうか。

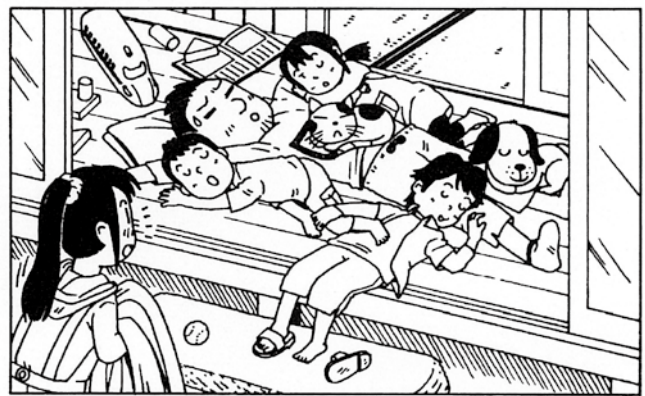
松島医療生協 ケアマネ 村山敏子

クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送って下さい。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。「声」の欄に掲載させていただきます。応募資格：臨時・パート含む県連職員。締切5月18日当日消印有効。発表6月1日号。3月1日号答え「デンシマネー（電子マネー）」応募総数25件。当選者：岡崎路子/長町病院、村山敏子/松島医療生協、伊藤初恵/田子のまち、菅原広丸/工房歩歩、榎原渉/事業協（敬称省略）



7つのマチガイ

【問題】上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります！どこでしょう？（作・野上和彦）



クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送って下さい。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。「声」の欄に掲載させていただきます。応募資格：臨時・パート含む県連職員。締切5月18日当日消印有効。発表6月1日号。3月1日号答え「デンシマネー（電子マネー）」応募総数25件。当選者：岡崎路子/長町病院、村山敏子/松島医療生協、伊藤初恵/田子のまち、菅原広丸/工房歩歩、榎原渉/事業協（敬称省略）